

平成30年度

適性検査Ⅱ

10:15～11:00

注意

- 1 問題は①から③まであり、この問題冊子は1ページから22ページにわたって印刷してあります。ページの抜け、白紙、印刷の重なりや不鮮明な部分などがないかを確認してください。あった場合は手をあげて監督の先生の指示にしたがってください。
- 2 受検番号と氏名を解答用紙の決められた場所に記入してください。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 計算が必要なときは、この問題用紙の余白を利用してください。
- 5 答えはすべて解答用紙に記入し、解答用紙だけを提出してください。
- 6 字ははっきりと書き、答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。

横浜市立南高等学校附属中学校

1 みなみさんは自転車の歴史やしぐみについて調べ、次の【資料1】、【資料2】を集めました。あとの問題に答えなさい。

【資料1】自転車の歴史

最初に発明された自転車は、200年ほど前に作られた①ドライジーネであるといわれている。この自転車にはペダルがなく、人は2つの車輪を前後に並べたものにまたがり、地面を足で踏むことで進んでいた。前輪にはハンドルが取り付けられ、進む方向を変えることができた。

やがてドライジーネの前輪にクランクとペダルが取り付けられ、ペダルをこぐことによってクランクを回し、車輪を回転させて進む自転車に発展した。しかし、乗り心地は悪く、②ボーンシェーカー（骨ゆすり）と呼ばれていた。

ボーンシェーカーは、ペダルをこぐことで直接車輪を回転させていたため、進む速さは、ペダルをこぐ速さと、ペダルがつけられた車輪の直径によって決まっていた。そこで、同じ大きさであった2つの車輪のうち、ペダルがつけられた車輪をもう一方の車輪に比べて大きくした自転車が作られた。この自転車は③ペニー・フェージングと呼ばれた。この自転車は、それまでのものよりも高速で走ることができたが、座る位置が高く危険であった。

やがて、【写真1】のようなギヤ（歯車）とチェーンを組み合わせて車輪を回転させるしくみが開発され、車輪を大きくしなくても速く走行できるようになり、安全で便利な現在の自転車の形になった。

【写真1】

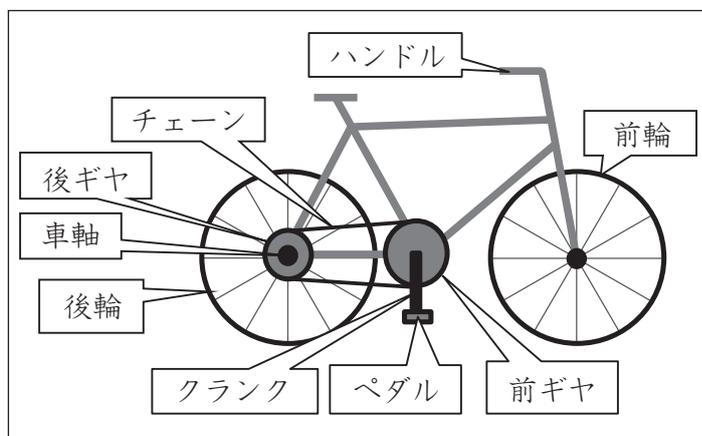


【資料2】現在の自転車のしくみ

現在の自転車はペダルをこぐことで、クランクを回して【図1】の前ギヤを回転させ、その回転をチェーンによって後ギヤに伝え、車軸を回すことで後輪を回転させて走る。

現在の自転車のなかには、^{*}歯数が異なる複数のギヤがついているものがある。前ギヤ、後ギヤの組合せを変えることで、水平な道を速く走ったり、上り坂を小さな力で上ったりできる。

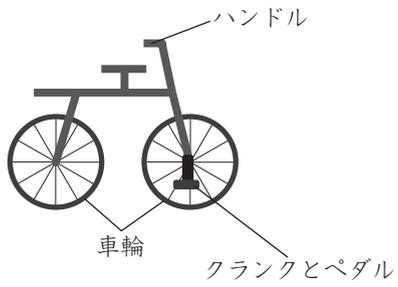
【図1】



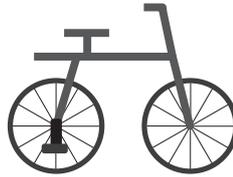
* 歯数・・・ギヤ（歯車）の歯の数

問題1 【資料1】の _____ 線①～③のイラストとして最も適切なものを、次のア～キから一つずつ選び、記号を書きなさい。

ア



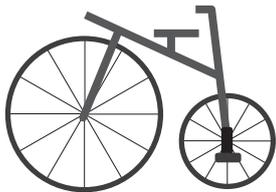
イ



ウ



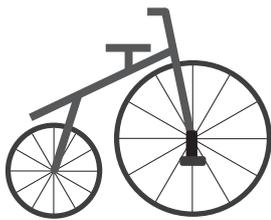
エ



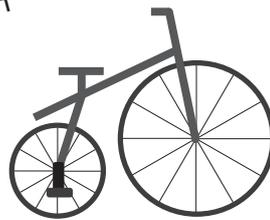
オ



カ



キ



問題2 みなみさんは、【資料2】から、ギヤを変えたときの^{ちが}の違いについてさらに調べ、次のようにまとめました。あとの問いに答えなさい。

ペダルをこいでクランクを1回転させると、前ギヤが1回転し、歯数の分だけチェーンが動く。動いたチェーンにより後ギヤが回転し、後輪が回る。

【表1】は、ギヤが複数ついた、ある自転車の前ギヤと後ギヤの歯数を表している。たとえば【表1】の前ギヤを1番、後ギヤを2番にすると、前ギヤを1回転させたとき、後ギヤは $28 \div 14$ で2回転する。

前ギヤを変えずに、後ギヤを歯数の少ないものに変えると、前ギヤが1回転したときの後ギヤの回転は（あ）、後輪の回転は（い）。したがって、ペダルをこいでクランクを1回転させたとき、自転車が進む距離は（う）。このとき、後輪を1回転させるために必要なクランクの回転は（え）が、ペダルをこぐためには大きな力が必要になる。そのため、ペダルをこぐ人はペダルを重く感じる。

反対に、後ギヤを歯数の多いものに変えると、ペダルをこいでクランクを1回転させたときの後輪の回転が（お）、自転車が進む距離は（か）。このとき、ペダルをこぐために必要な力は小さくなる。そのため、こぐ人はペダルを軽く感じ、小さい力で坂を上ることができる。

【表1】 ある自転車のギヤの歯数

前ギヤ		後ギヤ	
番号	歯数	番号	歯数
1	28	1	12
2	38	2	14
3	48	3	16
		4	18
		5	21
		6	26
		7	32

(1) 文章中の（あ）～（か）にあてはまるものとして適切なものを、次のア、イから一つずつ選び、記号を書きなさい。

- | | |
|-----------|------|
| (あ) ア 増え | イ 減り |
| (い) ア 増える | イ 減る |
| (う) ア 増える | イ 減る |
| (え) ア 増える | イ 減る |
| (お) ア 増え | イ 減り |
| (か) ア 増える | イ 減る |

- (2) 【表1】のようなギヤがついた自転車で、前ギヤを2番、後ギヤを3番にして、後ギヤの歯の1つに印をつけました。ペダルをこいでクランクを1回転させたとき、後ギヤの印をつけた歯は、最初の位置から回転する方向に何度位置にくるか、0度以上360度未満の角度で書きなさい。

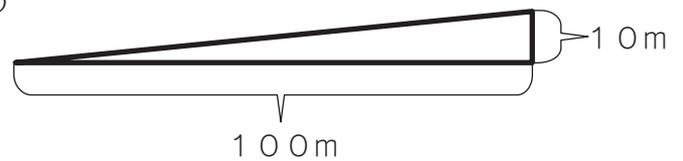
問題3 みなみさんは、次の【条件1】でA地点からH地点まで自転車で移動する計画を立てました。あとの問いに答えなさい。

【条件1】

- ・ A地点からH地点までは、上空から見るとA B C D E F G Hの順に一直線上に並ぶ。
- ・ A地点からH地点までの道の傾斜と道のりは、下の【表2】のようになっている。
- ・ 水平な道、下り坂、上り坂でそれぞれ異なる速さで走る。
- ・ 同じ傾斜の道では、最初から最後まで一定のペースで走る。
- ・ 水平な道では時速18kmで走り、下り坂ではブレーキをかけて分速360mで走る。
- ・ 上り坂では傾斜1%のときに秒速4mで走り、傾斜が2倍、3倍…となると、速さは2分の1、3分の1…となる。

※ 傾斜・・・かたむきの程度。傾斜10%の坂とは【図2】のようなかたむきの坂のことである。

【図2】



【表2】

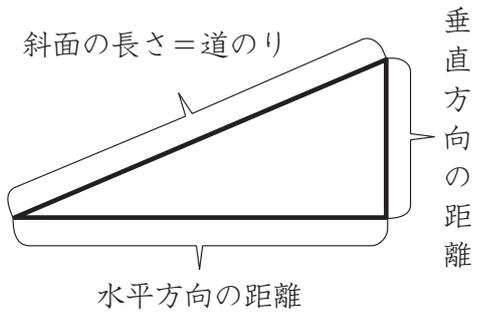
区間	傾斜	道のり
A地点～B地点	水平	1500m
B地点～C地点	上り4%	1200m
C地点～D地点	下り2%	900m
D地点～E地点	上り8%	900m
E地点～F地点	水平	600m
F地点～G地点	下り5%	1800m
G地点～H地点	水平	300m

(1) みなみさんの計画では、A地点を出発して、H地点に到着するまでに何分何秒かかることになるか、かかる時間を書きなさい。

(2) 【資料3】は傾斜ごとの斜面の長さきよりと水平方向の距離すいちよく、垂直方向の距離をまとめたものです。A地点からH地点までの水平方向、垂直方向の距離を書きなさい。水平方向は小数第1位まで、垂直方向は小数第2位まで書きなさい。

【資料3】

傾斜 (%)	道のり100mあたりの水平方向の距離 (m)	道のり100mあたりの垂直方向の距離 (m)
1	100.0	1.00
2	100.0	2.00
3	100.0	3.00
4	99.9	4.00
5	99.9	4.99
6	99.8	5.99
7	99.8	6.98
8	99.7	7.97
9	99.6	8.96
10	99.5	9.95



問題4 みなみさんは、ある週の平日（月曜日から金曜日）に、5つの町へ自転車で出かけることにしました。そのために、次の【条件2】にしたがって計画を立てました。【表3】をつかって、あとの問いに答えなさい。

【条件2】

- ・同じ日に、複数の町には行かず、複数のものを食べず、複数の施設^{しせつ}に行かない。
- ・次の①～⑫のすべてを満たす計画を立てる。
 - ① ラーメンを食べるのは、映画館^{えいがかん}に行く日の3日前か3日後。
 - ② なずな町に行くのは、家から3 km^{はな}離れた町に行く日の翌日^{よくじつ}。
 - ③ ドリアを食べる日は、金曜日。
 - ④ アイスcreamを食べる日は、美術館に行く。
 - ⑤ 博物館に行くのは、ケーキを食べる日の2日前か2日後。
 - ⑥ 展望台^{てんぼうだい}に行く日は、家から1.5 km離れた町に行く。
 - ⑦ つくし町は、家から2.5 km離れている。
 - ⑧ 美術館に行く日は、月曜日か金曜日。
 - ⑨ かえで町に行くのは、すみれ町に行く日よりも後。
 - ⑩ スパゲッティを食べる日は、家から1 km離れた町に行く。
 - ⑪ 家から2 km離れた町に行くのは、動物園に行く日の1日前か1日後。
 - ⑫ さくら町に行くのは、すみれ町に行く日よりも前。

【表3】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日

- (1) さくら町に行く曜日を書きなさい。
- (2) かえで町で食べるものを、【条件2】からぬき出して書きなさい。
- (3) すみれ町で行く施設を、【条件2】からぬき出して書きなさい。

このページには問題は印刷されていません。

2 みなみさんは、正多角形や、正多角形を組み合わせてできる立体について考えることにしました。次の問題に答えなさい。

問題1 みなみさんは、正八角形に対角線をひいて、正八角形の中にいくつかの三角形を見つけました。次の問いに答えなさい。

(1) 正八角形にひくことができる対角線の本数を書きなさい。

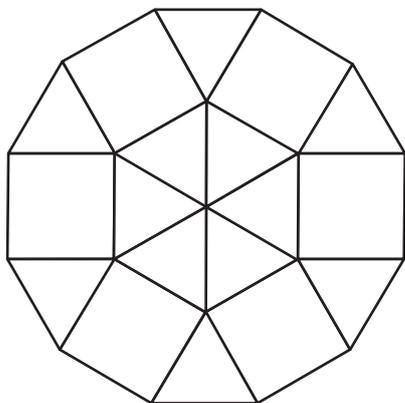
(2) 正八角形に対角線をすべてひいたときにできる三角形のうち、次の【条件】を満たす三角形の個数を書きなさい。

【条件】

- ・ 2つ以上の辺の長さが等しい。
- ・ 3つの辺はすべて対角線である。
- ・ 3つの頂点ちうてんが正八角形の頂点と重なっている。

問題2 みなみさんは、辺の長さが1 cmの正三角形と、辺の長さが1 cmの正方形を組み合わせ^{なら}せてすき間なく並べ、【図1】のような辺の長さが1 cmの正十二角形をつくりました。

【図1】



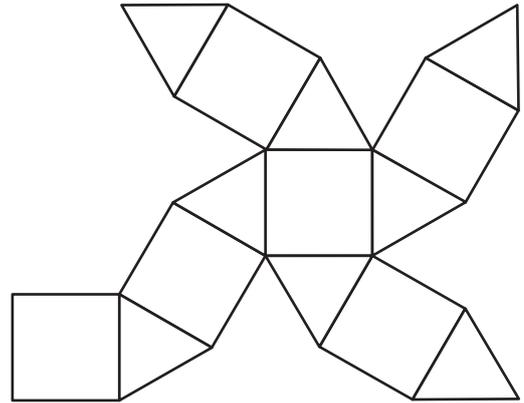
【図1】の正十二角形の周りに、さらに辺の長さが1 cmの正三角形と、辺の長さが1 cmの正方形を組み合わせ^{なら}せてすき間なく並べると、辺の長さが3 cmの正十二角形をつくることができました。そのとき、【図1】の正十二角形の周りにさらに並べた正三角形の個数と正方形の個数を、それぞれ書きなさい。

問題3 みなみさんは、一辺の長さが同じ正三角形8個と正方形6個を組み合わせて、**【写真1】**のような向かい合う面が平行で、へこみのない立体をつくりました。各面には1から14までの数が書かれていて、向かい合う面の数の合計はすべて同じになります。**【写真1】**では、1、4、8、9、10、12、13が見えています。**【図2】**はこの立体の展開図です。あとの問いに答えなさい。

【写真1】



【図2】



(1) みなみさんは、**【写真1】**の立体に、2つの頂点を結ぶ直線のうち、立体の表面上にあるものを除いた直線が何本あるのかを、次のように考えました。
 (あ) ~ (き) にあてはまる数を書きなさい。また、には、 線^①の計算をした理由としてあてはまる言葉を、15字以内で書きなさい。

まずは、1つの頂点からほかの頂点へひくことができる直線について考える。

【写真1】の立体の頂点の数は全部で (あ) 個ある。

1つの頂点からほかの頂点へひくことができる直線の数は、その頂点自身を除いた数だけあるから (い) 本である。

そのうち、立体の表面上にあるものは、立体の辺となっている直線が (う) 本と、正方形の対角線である直線が (え) 本である。

よって、1つの頂点からほかの頂点へひくことができる直線のうち、立体の表面上にあるものを除く直線は (お) 本になる。

次に、すべての頂点で考えると、どの頂点からも同じ数だけ直線はひくことができ、(あ) × (お) で (か) 本となる。

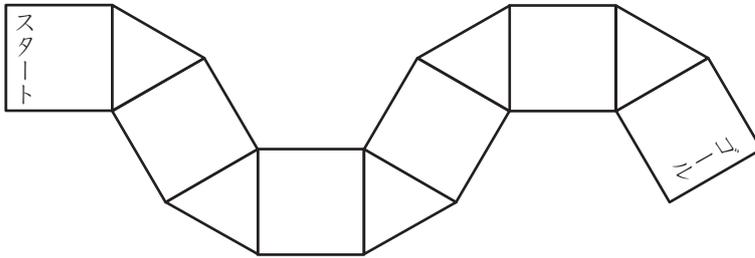
しかし、このときにひいた直線は、から、

2つの頂点を結ぶ直線のうち、立体の表面上にあるものを除いた直線は、

(か) ^① ÷ 2 で (き) 本となる。

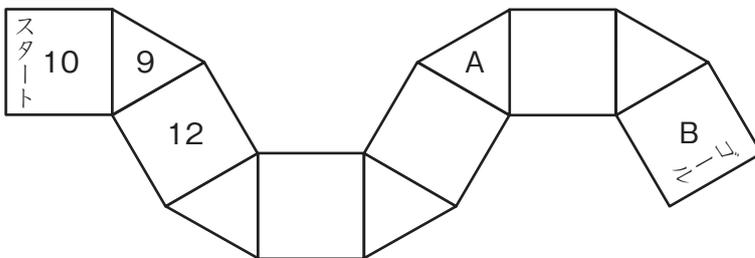
(2) みなみさんは、【写真1】の立体の面と同じ大きさの正三角形、正方形をつかい、【図3】のように並べてコースをつくりました。

【図3】



【図3】のスタート位置に【写真1】の立体を、10と書かれた面が下になるように置き、コースとぴったり重なるようにゴールの位置まで転がしました。1マス進むごとに【写真1】の立体に書かれている数を、コースに記録しました。【図4】は2マス進んだときの結果です。このままコースに沿って転がし続けたとき、AとBに入る数を書きなさい。

【図4】



(3) みなみさんが【図3】とは別のコースで【写真1】の立体を転がして、コースに記録された数を、小さい順に並べかえたところ、【図5】のようになりました。この並び順のまま、いろいろな計算をしてみると、全ての数をたしたときの結果が、1か所かけ算にして、残りをたしたときの結果の半分になりました。Cにあてはまる数を書きなさい。同じ数が2回記録されることもあります。

【図5】

2	C	9	11	12	13
---	---	---	----	----	----

このページには問題は印刷されていません。

3 【みなみさんと先生の会話文】を読んで、あとの問題に答えなさい。

【みなみさんと先生の会話文】

先生：今ここに、森から運んできた落ち葉が混ざった土があります。土の中で生活している動物を土壤動物どじょうといますが、この土の中にどのような土壤動物がいるのかを調べてみましょう。じっと目をこらして観察してください。

みなみさん：ダンゴムシ、アリ、ミミズを見つけました。名前がわからない土壤動物もいます。

先生：【表1】を使えば、土壤動物の特徴とくちゆうから分類名を調べることができます。

【表1】

特 徴			分 類 名		
足がない	殻 <small>から</small> に入っている		陸貝		
	殻に入っていない	体はヒモのような形	体長3cm以上、ピンク色～赤茶色 体長1.5cm以下、白色	ミミズ ヒメミミズ	
		体は筒 <small>つつ</small> のような形	はっきりした頭がある はっきりした頭がない	甲虫 <small>こうちゆう</small> の幼虫 <small>ようちゆう</small> ハエ・アブの幼虫	
	足は6本	はねがない	尾 <small>お</small> の先 <small>※どつき</small> に突起 <small>とっき</small> がある	突起は3本 突起は2本 突起は1本で、筒のような形 突起は1本で、先が2本に分かれている	イシノミ ナガコムシ アザミウマ トビムシ
尾の先に突起がない			触角 <small>しよつかく</small> は「く」の字に折れ曲がる 触角には多くの節がある 触角は小さなトゲのような形	アリ シロアリ 甲虫の幼虫	
			はねがある	はねは羽毛 <small>うも</small> のような形	アザミウマ
				はねはかたく、はらよりも短い	体は細長く、尾にはさみがある 体は細長く、尾にはさみがない 体は短く太い
はねはかたく、はら全体をおおっている		口は長く突き出ている 口は長く突き出していない			ゾウムシ 甲虫
		はねはやわらかく、左右のはねは重なる			カメムシ
足は8本		むねとはらの間 <small>ま</small> が細くなっている		クモ	
		むねとはらの間が細くなっていない	はら <small>はら</small> に節 <small>ふし</small> がない、体長2mm未満		ダニ
			はらに節がある	足は体長より短い 足は体長と同じ長さか、それより長い	カニムシ ザトウムシ

(青木淳一「だれでもできるやさしい土壤動物のしらべかた」をもとに作成)

※ 突起・・・まわりよりも長く突き出ているもの。

みなみさん：土の中には、いろいろな土壤動物がいるのですね。

先 生：土壌動物学の専門家である青木淳一先生は、自然の環境が異なるいろいろな場所で土壌動物の調査を行い、自然の環境が良好に保たれているところで共通してみられる土壌動物や、幅広い自然の環境に適応している土壌動物がいることを発見しました。このことから、青木先生は、土の中にどのような種類の土壌動物がいるのかを調べれば、自然の環境がどのくらい良好に保たれているのかがわかると考え、「自然の豊かさ」をはかる方法を考案しました。

みなみさん：それはどんな方法なのですか。

先 生：【表2】を見てください。

【表2】

Aグループ	Bグループ	Cグループ
ザトウムシ	カニムシ	トビムシ
オオムカデ	ミミズ	ダニ
陸貝	ナガコムシ	クモ
ヤスデ	アザミウマ	ダンゴムシ
ジムカデ	イシムカデ	ハエ・アブの幼虫
アリヅカムシ	シロアリ	ヒメミミズ
コムカデ	ハサミムシ	アリ
ヨコエビ	ガの幼虫	ハネカクシ
イシノミ	ワラジムシ	
ヒメフナムシ	ゴミムシ	
	ゾウムシ	
	甲虫の幼虫	
	カメムシ	
	甲虫	

(青木淳一「だれでもできるやさしい土壌動物のしらべかた」をもとに作成)

先 生：青木先生は、「自然の豊かさ」をはかるのに適した32種類の土壌動物を選び、をAグループ、をCグループ、中間をBグループとして、3つのグループに分けました。そして、Aグループには1種類につき5点、Bグループには1種類につき3点、Cグループには1種類につき1点の点数をつけました。

みなみさん：具体的には、どのようにして「自然の豊かさ」をはかるのですか。

先 生：たとえば、ある場所で、どのような種類の土壌動物がいるのかを調査し、ミミズ、ワラジムシ、ダンゴムシ、アリの4種類を発見したとします。【表2】より、ミミズは3点、ワラジムシは3点、ダンゴムシは1点、アリは1点なので、合計点は、3+3+1+1で8点になります。この合計点で、その場所の「自然の豊かさ」を表しているのです。

みなみさん：合計点が高いほど、その場所の「自然の豊かさ」が高いということになるのですね。

先生：そうです。では、もしも【表2】のすべての^{どじゅう}土壌動物が発見されたとすれば、合計点は何点になるでしょう。

みなみさん：Aグループは10種類なので 5×10 で50点、Bグループは14種類なので 3×14 で42点、Cグループは8種類なので 1×8 で8点。すべてたすと、ちょうど100点になります。

先生：正解です。青木先生は、「自然の豊かさ」を100点満点ではかることができるように、この方法を考えたのです。

みなみさん：土壌動物で「自然の豊かさ」をはかるなんておもしろいです。いろいろな場所で土壌動物を調べて、結果を比べてみたいです。ところで、「自然の豊かさ」をはかるとき、土壌動物の数は調べなくてよいのですか。

先生：はい。土壌動物の種類だけを調べればよいです。けれども、みなみさんの言うとおりに、土壌動物の数も調べれば、何か別の発見があるかもしれないですね。

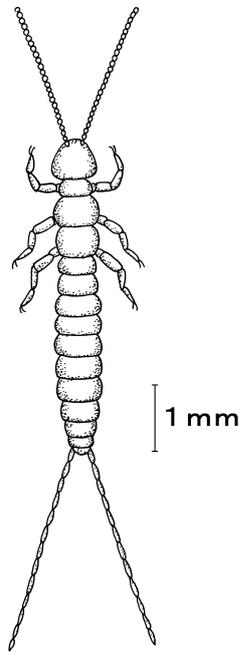
みなみさん：興味がわいてきました。土壌動物を調査するときのポイントがあれば教えてください。

先生：ほとんどの土壌動物は、地面の浅いところにいます。地面を深く^ほ掘らずに、表面の土やしめった落ち葉を集めて調べるとよいでしょう。

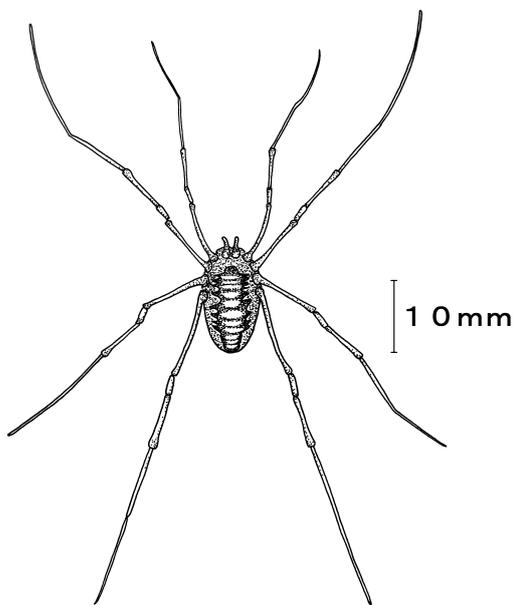
みなみさん：わかりました。さっそく調べてみます。

問題1 みなみさんが見つけた、次の【土壌動物X】と【土壌動物Y】の分類名を【表1】の分類名から一つずつ選び、それぞれ書きなさい。

【土壌動物X】



【土壌動物Y】



問題2 【みなみさんと先生の会話文】の と にあてはまることばとして最も適切なものを、次のア～オから一つずつ選び、記号を書きなさい。

- ア 自然の環境かんきょうの良い悪いにかかわらず、いる数が少ない土壤動物どじょう
- イ 自然の環境が良好に保たれているところには、あまりいない土壤動物
- ウ 自然の環境がかなり悪化しても、生きていくことができる土壤動物
- エ 自然の環境が悪化すると、大きく成長する土壤動物
- オ 自然の環境が悪化すると、すぐになくなってしまう土壤動物

問題3 みなみさんは、ある公園の雑木林で、土壌動物の調査を行うことにしました。次の【調査の目的Ⅰ】と【調査の目的Ⅱ】にふさわしい調査の方法として最も適切なものを、あとのア～オから一つずつ選び、記号を書きなさい。同じ記号を2回選んではいけません。

【調査の目的Ⅰ】

雑木林全体で、できるだけ多くの種類の土壌動物を見つける。

【調査の目的Ⅱ】

雑木林の中のいくつかの地点で、土壌動物の数を調べ、その結果を比較^{ひかく}する。

- ア 落ち葉が厚く積もっているところや倒^{たお}れた木の下などのいろいろな地点の地面から、土や落ち葉をとって調査する。
- イ 調査する時間と地点を決め、毎日同じ時間に、同じ地点からくり返し土や落ち葉をとって調査する。
- ウ いくつかの地点で地面を同じ深さまで深く掘^ほり、掘った穴の底からそれぞれ土をとって調査する。
- エ ある大きさの枠^{わく}をつくっていくつかの地点に置き、枠で囲まれた範囲^{はんい}からそれぞれ同じ量の土や落ち葉をとって調査する。
- オ アリの巣があるところなど、土壌動物の数が多いと考えられる地点を探^{さが}し、そこから土や落ち葉をとって調査する。

問題4 次の【表3】は、みなみさんが3つの公園の雑木林Ⅰ～Ⅲを調査をした結果、見つけた土壌動物の種類と数をまとめたものです。

【表3】

	雑木林Ⅰ		雑木林Ⅱ		雑木林Ⅲ	
	種類	数	種類	数	種類	数
A グループ	ザトウムシ	1	ヤスデ	2	陸貝	2
	陸貝	3	アリヅカムシ	3	ヤスデ	4
	ジムカデ	1	コムカデ	3	コムカデ	1
	ヨコエビ	2	ヒメフナムシ	3	ヨコエビ	2
	イシノミ	1				
B グループ	カニムシ	1	ミミズ	4	ミミズ	3
	ミミズ	7	アザミウマ	1	ナガコムシ	1
	ナガコムシ	2	ハサミムシ	2	アザミウマ	2
	イシムカデ	1	ゾウムシ	2	イシムカデ	2
	シロアリ	3	甲虫	3	ハサミムシ	1
	ワラジムシ	3			ガの幼虫	2
					ワラジムシ	4
				甲虫の幼虫	3	
				カメムシ	1	
C グループ	トビムシ	11	トビムシ	19	トビムシ	16
	ダニ	27	ダニ	43	ダニ	37
	クモ	2	クモ	3	ダンゴムシ	3
	ダンゴムシ	4	ハエ・アブの幼虫	6	ハエ・アブの幼虫	5
	ハエ・アブの幼虫	2	ヒメミミズ	25	ヒメミミズ	18
	ヒメミミズ	13	アリ	9		
	アリ	5				
	ハネカクシ	2				

次の【メモ】の ～ にあてはまるものを、あとのア～カから一つずつ選び、記号を書きなさい。同じ記号を何度選んでもかまいません。

【メモ】

- 【表3】の雑木林Ⅰ～Ⅲを、土壌動物の数の合計が多い順に並べると、
 になる。
- 土壌動物の数の注目して【表3】の雑木林Ⅰ～Ⅲを比べたとき、Aグループの土壌動物の数がしめる割合わりあいが大きい順に並べると、 になる。
- 土壌動物の種類に注目して【表3】の雑木林Ⅰ～Ⅲを比べたとき、Aグループの土壌動物の種類しゅるいの数がしめる割合が大きい順に並べると、 になる。
- 【表3】の雑木林Ⅰ～Ⅲを、「自然の豊かさ」の点数が高い順に並べると、
 になる。

- ア 雑木林Ⅰ、雑木林Ⅱ、雑木林Ⅲ
- イ 雑木林Ⅰ、雑木林Ⅲ、雑木林Ⅱ
- ウ 雑木林Ⅱ、雑木林Ⅰ、雑木林Ⅲ
- エ 雑木林Ⅱ、雑木林Ⅲ、雑木林Ⅰ
- オ 雑木林Ⅲ、雑木林Ⅰ、雑木林Ⅱ
- カ 雑木林Ⅲ、雑木林Ⅱ、雑木林Ⅰ

適性検査Ⅱ 解答用紙

1

※には何も記入しないこと。

問題 1	①		②		③		※
------	---	--	---	--	---	--	---

問題 2	(1)	あ		い		う		
		え		お		か		
	(2)						度	※

問題 3	(1)	分		秒	
	(2)	水平方向の距離			m
		垂直方向の距離			m

問題 4	(1)			曜日
	(2)			
	(3)			

2

問題 1	(1)			本
	(2)			個

問題 2	正三角形		個	正方形		個	※
------	------	--	---	-----	--	---	---

問題 3	(1)	あ		い		う		え	
		お		か		き			
	(2)	A			B				
	(3)								※

3

問題 1	土壌動物 X		
	土壌動物 Y		

問題 2	あ		い		※
------	---	--	---	--	---

問題 3	調査の目的 I		調査の目的 II		※
------	---------	--	----------	--	---

問題 4	①		
	②		
	③		
	④		

受検番号	氏名	※

適性検査Ⅱ 解答用紙（解答例）

1

問題1	①	ウ	②	ア	③	カ
-----	---	---	---	---	---	---

問題2	(1)	あ	ア	い	ア	う	ア
		え	イ	お	イ	か	イ
	(2)	135		度			

問題3	(1)	65分30秒			
	(2)	水平方向の距離	7194.3 m		
		垂直方向の距離	11.91 m		

問題4	(1)	月	曜日
	(2)	ケーキ	
	(3)	動物園	

2

問題1	(1)	20	本
	(2)	16	個

問題2	正三角形	96	個	正方形	48	個
-----	------	----	---	-----	----	---

5

18

26

15

15

15

問題3	(1)	あ	12	い	11	う	4	え	2																				
		お	5	か	60	き	30																						
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>同</td><td>じ</td><td>所</td><td>に</td><td>2</td><td>回</td><td>ず</td><td>つ</td><td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ひ</td><td>か</td><td>れ</td><td>て</td><td>い</td><td>る</td><td></td><td></td><td>から</td><td></td> </tr> </table>									同	じ	所	に	2	回	ず	つ			ひ	か	れ	て	い	る			から	
	同	じ	所	に	2	回	ず	つ																					
ひ	か	れ	て	い	る			から																					
(2)	A	9		B	3																								
(3)	8																												

46

3

問題1	土壌動物X	ナガコムシ
	土壌動物Y	ザトウムシ

8

問題2	あ	オ	い	ウ
-----	---	---	---	---

10

問題3	調査の目的I	ア	調査の目的II	エ
-----	--------	---	---------	---

10

問題4	①	エ
	②	ア
	③	ウ
	④	オ

32

受検番号	氏名

200